

鶴地区 (苓北町)

龍が黒雲を呼び名水湧く 下天草の北里から
～受け継がれる団結力と多様な人材を農業に活かす～



ビジョンの概要

地区の課題

- ・担い手（個人・組織）の育成・確保 ・耕作条件の改善
- ・農業収入の確保とコスト削減 ・鳥獣被害（イノシシ）の軽減
- ・喜びを感じられる農業の継続

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 水稻・果樹栽培の作業しやすい環境の整備

- ①用水路を整備する。
- ②担い手、営農組織に農地を集積し、規模拡大及び遊休農地の利活用を図る。
- ③機械の共同購入、共同利用を行い、オペレーターを育成する。

(2) 農業で生活できる収入の確保

- ①米の高品質化、ブランド化に取り組む。
- ②直販体制を確立する（インターネット・契約・直売所等）

(3) 地域で有害鳥獣による農作物被害の防止

- ①団地ごとに侵入防護柵（金網）を設置する。
- ②集団的な捕獲体制の確立を目指す。

(4) 地域資源を生かした「鶴地区 龍の里」地域づくり

- ①黒染のため池・龍の尾観音・風力発電等を活用した地域づくりに取り組む。
- ②鶴地区で収穫祭を実施する。

(5) 農業を柱とした地域協働活動・担い手づくり

- ①営農組織をつくる。
- ②地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する。

成果目標

- ・米の相対販売単価を上げる。目標8,500円/モミ30kg（現状7,500円/モミ30kg）
- ・かぼちゃ、さつまいもを中心に多品目栽培し、耕作放棄地20a解消する。

ビジョン策定のプロセス

現状不安への地域の思いと、
行政の働きかけが重なった



視察研修と改善策の検討

課題に優先順位を付け、具体的なビジョンを協議。「山都町清和 高月地区」「八代市坂本町 鶴喰地区」の視察研修を実施した。

行政との連携を密に

これまでの協議や視察での学びを元に、鶴地区における具体的な改善策を検討した。代表が役場出身だったこともあり、行政との連携がスムーズかつ綿密に行えた。

ビジョン案を地域全体に報告

ビジョン案制作後、地域での全体報告会を実施。特に地区住民への説明は丁寧に行ったため、住民に理解を得るとともに、地域全体で高い問題意識をもってビジョン策定に取り組むことができた。

具体的取り組み

(1) 水稻・果樹栽培の作業しやすい環境の整備

- 用水路を整備する
→令和3年度末までに6~7割が完了。
- 担い手、営農組織に農地を集積し、規模拡大及び遊休農地の利活用を図る
→担い手農家へ新たに3haの農地を集積した。
- 機械の共同購入、共同利用を行い、オペレーターを育成する
→令和4年度に共同利用の機械を導入する。



(2) 農業で生活できる収入の確保

- 米の高品質化、ブランド化に取り組む
- 直販体制を確立する（インターネット・契約・直売所等）
→評価は年々上がっている。ふるさと納税の返礼品採択を目指す。

(3) 有害鳥獣による農作物被害の防止

- 団地ごとに侵入防護柵（金網）を設置する
- 集団的な捕獲体制の確立を目指す
→有害鳥獣対策モデル地区に指定され、各種研修会を開催。
電柵や箱罠の効果的な設置で、イノシシの捕獲数も増えた。

(4) 地域資源を生かした「鶴地区 龍の里」地域づくり

- 黒染のため池・龍の尾観音・風力発電等を活用した地域づくりに取り組む
→雨ごいをしたら龍が舞い上がり、黒雲が出て雨が降り出したという伝説がある。スローガンに掲げる伝説をPRして地域ストーリーをつくり、地域産業への波及効果をねらう。
- 鶴地区で収穫祭を実施する
→コロナの影響で実施できていない。



(5) 農業を柱とした地域協働活動・担い手づくり

- 営農組織をつくる
- 地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する
→さつまいもを試験栽培。こっばもちの原料も加工品開発を目指す。

成果

成果目標

- ・米の相対販売単価を上げる。
- ・かぼちゃ、さつまいもを中心に多品目栽培し、耕作放棄地20a解消する

結果

- ・品質は向上しているが単価上昇には繋がらず。
- ・さつまいも栽培は手応えがあり、今後拡大予定。

今後に向けて

耕作放棄地の対策を優先に、次期担い手へのアプローチも行う